

全国さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（歯舞地区）

事業実施者：歯舞漁業協同組合

使用船舶名：第八十八翔洋丸(29トン)

支援期間：平成26年8月15日～平成29年8月14日

(さんま棒受網漁業)

(取組の内容)

- 省エネ船型、大口径固定ピッチプロペラと2段減速及び電子トローリングの採用、LED漁灯の採用等による燃油使用量の削減
- 主機関の低重心化、燃料配管の大口径化及びポンプの大型化、監視カメラによる漁船の安全性向上、LED漁灯による洋上での集魚灯電球の交換回避、サイドローラー設置等による作業の安全化・軽労化、居住環境の改善による乗組員の労働環境の向上、就労者確保
- 品質管理システムの継続、魚倉内張りのステンレス化による衛生管理の向上、船上箱詰製品のブランド化維持と拡大
- TAC制度に基づく資源管理、環境設備の導入による海洋汚濁、大気汚染の防止の推進
- 加工・流通業と連携した高付加価値さんまの流通開拓、催事等への参加やPR活動を通じた地域水産物の認知度向上や販路開拓。

新船導入



さんま祭り
(PR等)

作成ポスター
(PR等)



(事業の成果)

- 漁獲量は3ヶ年平均1,071トンと計画を上回る結果となり、平均単価が3ヶ年平均178円/kgと計画（約96円/kg）より大幅に上昇したことから、水揚金額は3ヶ年平均168,094千円と計画（97,296千円）を73%上回った。他方、経費は3ヶ年平均116,680千円と計画（78,235千円）を49%上回った。この原因は操業日数が計画値（99日）を23日上回ったこと、漁場が計画策定時に想定した海域より遠方に形成されたことにより、燃油費等が増加したことによる。償却前利益は3ヶ年平均で51,414千円となった。
- 燃料使用量は3ヶ年平均250.3KLであった。従前船からの燃油削減率は11%で計画（31%）には及ばなかった。その要因としては、漁場が復興計画策定時の想定より遠方に形成されたことにより燃油使用量が増加したことが考えられる。
- 一本立ち歯舞さんまの規格に合う大型さんまが獲れなかったことから、3年間で計531箱の生産で終わった。今後とも、日帰り航海で大型個体が漁獲出来た場合は生産する。
- 毎年9月根室市主催のさんま祭りでサンマ2トンを販売し、さんまのPRと歯舞サンマの販路拡大に努めた。